



# 個人投資家サーベイ

個人投資家の皆様の相場環境に対する意識調査のため、2010年9月17日～9月21日にアンケートを実施しました。ご回答くださった皆様には、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございます。今、個人投資家の皆様が、相場をどのようにとらえているのか、調査結果をまとめました。

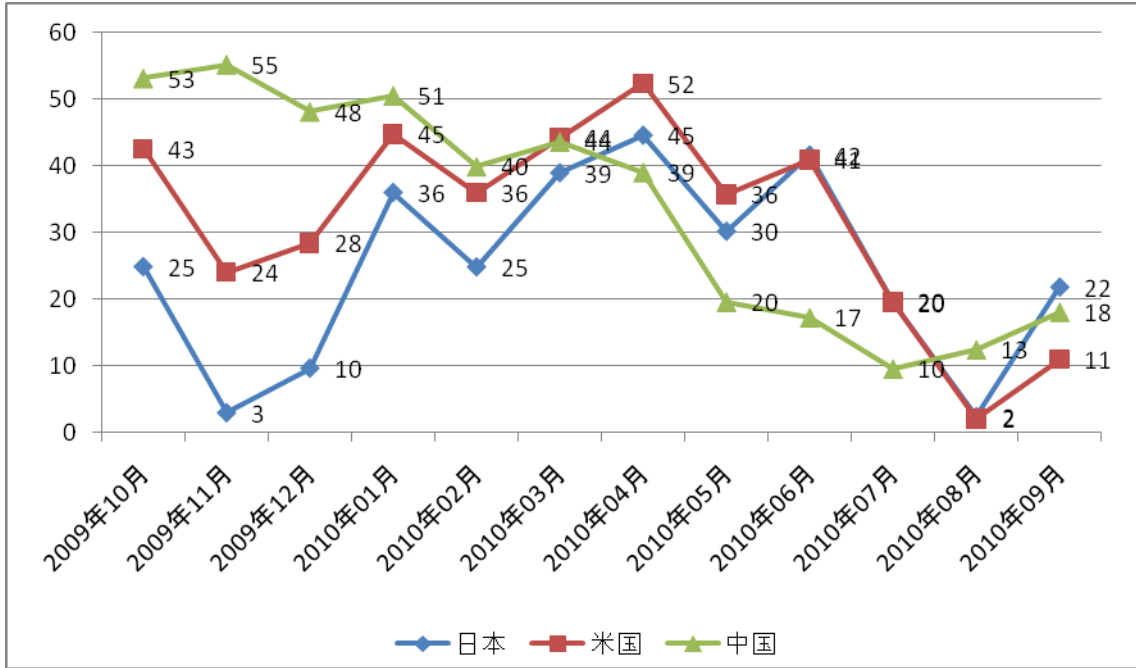
「Monex 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査として毎月アンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009年10月に第1回サーベイを行い、月次で公表しております。



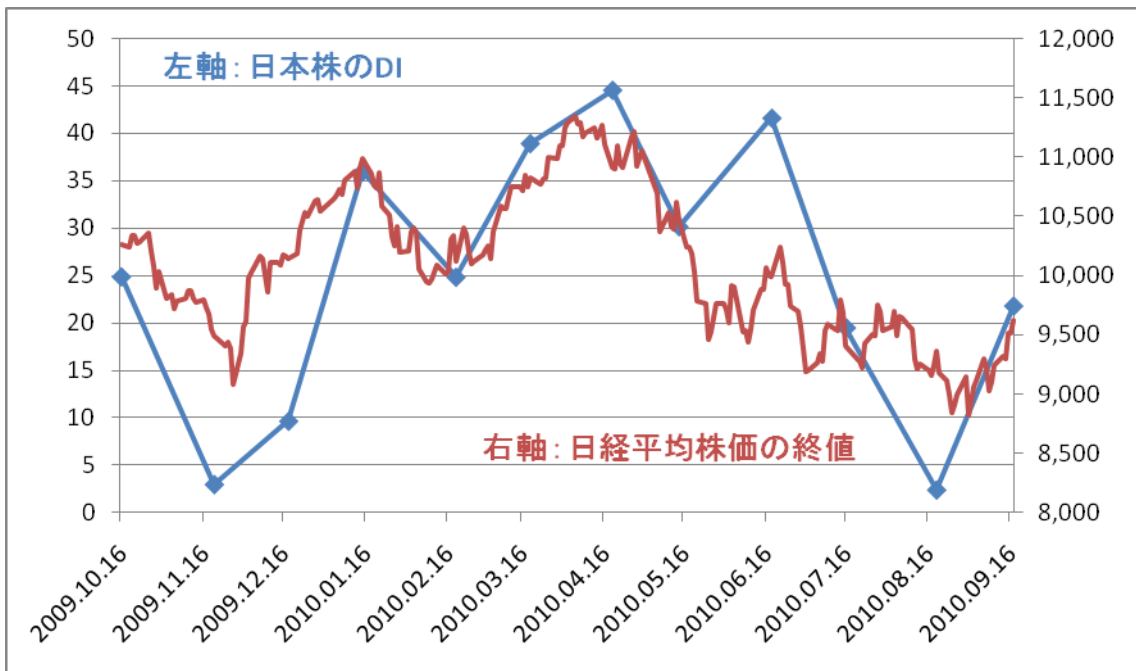
## ■ 調査結果

### 1 株式市場を取り巻く環境について

#### (1) 今後3ヶ月程度の株価予想（日本、米国、中国の12ヶ月DI推移）



今後3ヶ月間の株価予想について、日本、米国、中国ともDI（※）は改善しました。（※DI：「上昇すると思う」と回答した%から「下落すると思う」と回答した%を引いたポイント）

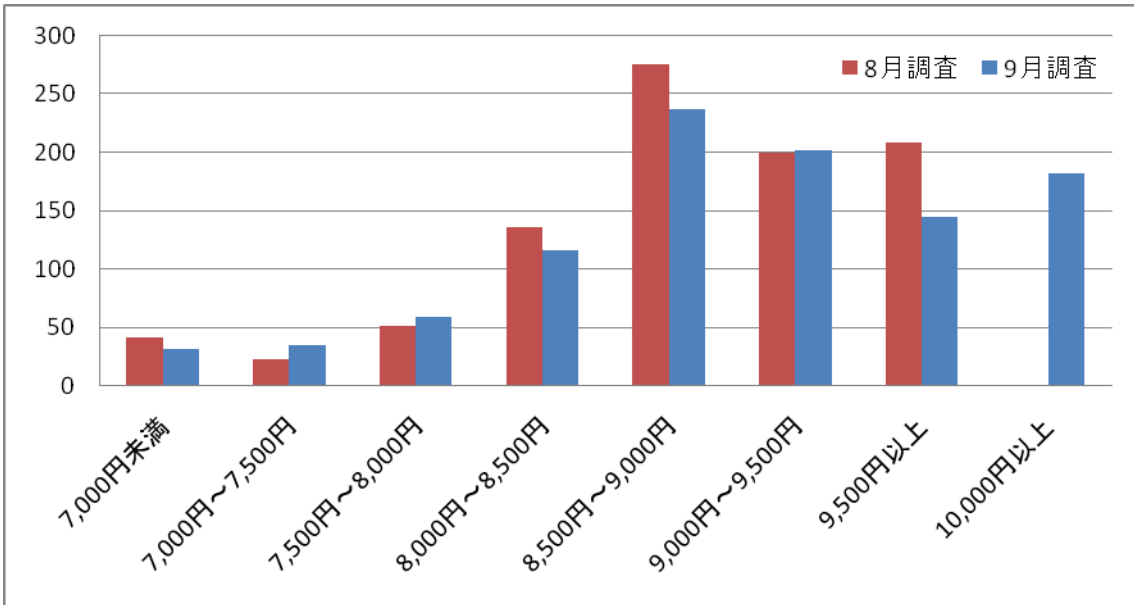


日本株について、日経平均株価の回復と比例するように、日本株のDIが改善しています。

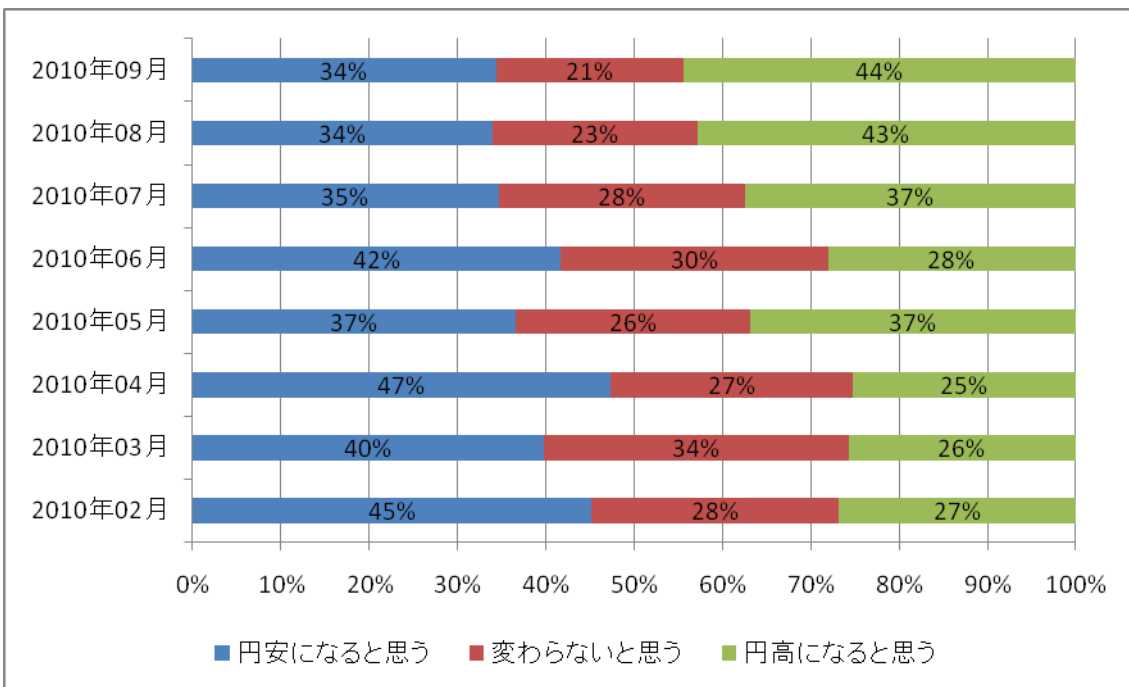


(2) 日本株を買いたい水準

(日経平均株価がどの水準であれば、日本株を買いたいと思いますか?)



(3) 今後3ヶ月程度の米ドル/円相場予想

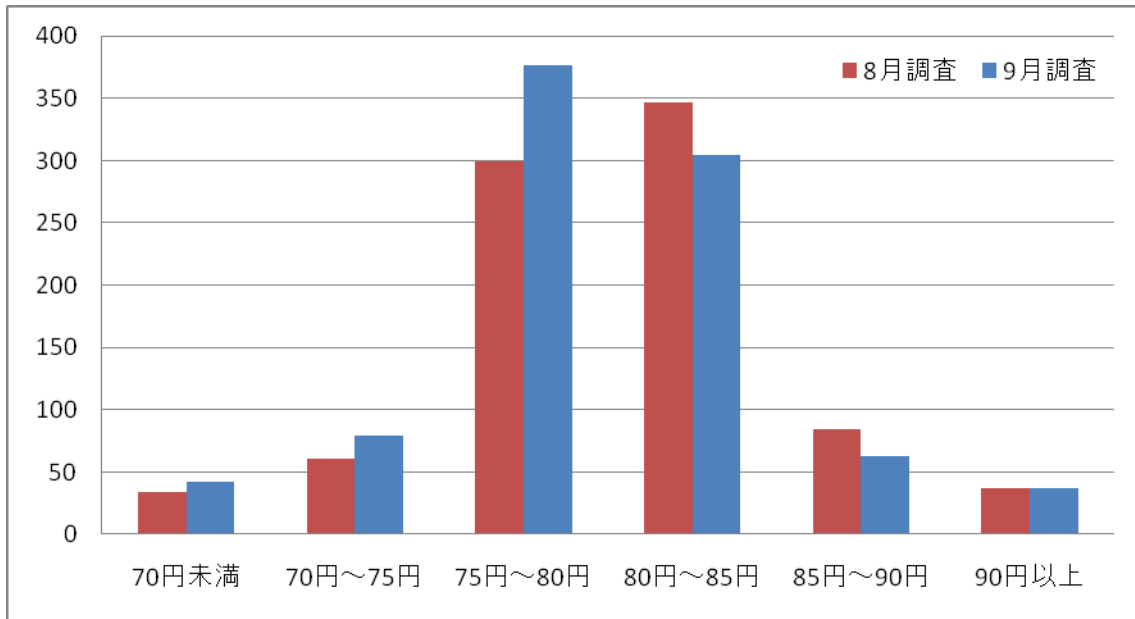


先月よりもさらに、円高を予想する割合が増えています。



## (4) 米ドルを買いたい水準

(ドル円相場がどの水準であれば、米ドルを買いたいと思いますか?)



## 2 日本の株式市場について

## (1) 日本市場の各業種に対する今後3ヶ月程度の見通し

(魅力的であると思う業種のランキング)

2010年8月

- 1 医薬品
- 2 ハイテク
- 3 通信
- 4 商社
- 5 自動車
- 6 電力・ガス
- 7 機械
- 8 海運
- 9 非鉄
- 10 銀行
- 11 鉄鋼
- 12 小売
- 13 不動産

2010年9月

- 1 医薬品
- 2 ハイテク
- 3 通信
- 4 商社
- 5 電力・ガス
- 6 機械
- 7 自動車
- 8 海運
- 9 非鉄
- 10 不動産
- 11 小売
- 12 銀行
- 13 鉄鋼

上位4位までの業種は変わりませんでしたが、自動車が5位から7位に順位を落としています。



### 3 お客様の日本株取引について

#### (1) 今後3ヶ月の投資意欲について



売買頻度のDIは、先月の10から今回は14まで改善しました。(※DI：売買頻度を増やしたいと回答した%から売買頻度を減らしたいと回答した%を引いたポイント)

## ■ 総括

今月の個人投資家サーベイは、政府・日銀が6年半ぶりに円売り為替介入に踏み切り日本株が急騰した直後に調査が行われたこともあり、前月と比較して日本株の見通しに対して改善が見られました。

先月に大きく低下した日本株と米国株のDI（今後の3ヶ月先の株価予想、「上昇する」—「下落する」、中立が0）が大きく反転しました。前回調査では両指数ともに+2と、「上昇する」と「下落する」がほぼ同数に並んだ格好でしたが、「上昇する」が上回りました。

日本株は米国株との相関が強いのでDIもほぼ同じに推移してきたことは納得的です。興味深い点は、前月までの3ヶ月(6-8月)はDIの数値自体もまったく同じであった(+42、+20、+2)ものが、今回は4ヶ月ぶりに差が開いた点です。しかも日本株のDIは+22と米国の+11に対してちょうど倍。これまでは日本株は米国株次第というスタンスから、日本株の出遅れ感を意識してか日本株の上昇を見込む意見が多かったようです。



「日本株を買いたいと思う日経平均株価の水準」という質問については、先月対比回答が分散した感があります。日経平均 8,500～9,000 円が最も多い回答だったことは先月と変わりませんが、同価格帯の回答数は減少しています。一方、先月は無かった 10,000 円以上という回答が 3 番目に多かったです。これは単に株価水準が上方にきり上がったからということもあるでしょうが、「買いたいと思う水準」という質問から考えると、一段と上昇してから買いたいという答えは「株価が上放れて上昇トレンドが鮮明になってから買いたい」というお客様もいらっしゃると思われま

す。また日米に先駆けて DI の改善が見られた中国株ですが、今月も引き続き DI は改善しています。但し、改善度は+13 から+18 と日米の改善度には劣後しました。今月の調査では日本株の DI が最も高くなっています。日本株が単独で首位に立つのは調査開始以来初めてです。ですが三者の DI 水準が低いなかでの僅差の首位ですので、これまでの下げがきつかった分の出遅れ修正期待を映してのことと思われま

す。ドル円相場については、「円高になる」という予想が前月に続いて増加、44%と本調査開始以来最も高い割合まで上昇しました。これは政府・日銀による 6 年半ぶりの円売り為替介入の直後にこの調査が行われたことを考えるとやや違和感があります。介入の効果を疑問視し依然円高傾向は続くとする市場関係者もおりますが、そうした見方が影響しているのでしょうか。

実際に「米ドルを買いたい水準」という質問については、75～80 円台が最も多くの回答を集めました。一段の円高が進行しましたので、いよいよドル円相場の史上最高値 79.75 を意識されるようになったものと思われま

す。日本株の業種については自動車が前月の 5 位から 7 位に順位を下げています。為替の見通しでは一段の円高を予想されていたので、その影響でしょう

す。日本株の投資意欲 DI も改善しており、市場心理の好転が反映されているようです。

今回も皆様方のご協力で、大変貴重なデータを作成・分析することができました。本当にありがとうございました。今回のサーベイが個人投資家の皆様方の投資判断の一助となれば幸いです。

(マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆)



## ■ 調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査  
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家  
 回答数： 1,082件  
 調査期間： 2010年9月17日～9月21日

### 【性別】

男性	女性
85.0%	15.0%

### 【年齢】

未成年	20代	30代	40代	50代	60代	70歳超
0.4%	5.2%	25.0%	33.7%	17.7%	13.8%	4.3%

### 【金融資産】

500万未満	500万 ～1000万	1000万 ～2000万	2000万 ～5000万	5000万 ～1億	1億以上
32.2%	23.0%	19.3%	18.5%	5.3%	1.8%

### 【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
6.9%	11.3%	27.1%	30.3%	24.4%

### 【株式投資のご経験】

1年未満	2年～5年	5年～10年	10年以上
7.4%	31.4%	27.4%	33.7%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したのではなく、また示唆するものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

## マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号  
 加入協会：日本証券業協会、（社）金融先物取引業協会